

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地 区	中津江 地 区	市長・副市長の出席	市長・副市長
日 時	平成 30 年 10 月 15 日 (月) 19:30~21:15	場 所	中津江振興局 集会室
地 区 参加者	野田 自治会長 (武原地区理事) 津江 川辺自治会長 杉本 丸蔵自治会長 赤星 鯛生自治会長		計 33 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	鈴木 教育次長	副リーダー 高野 まちづくり推進課長
	プレゼン テーター	中島 商工労政課長	連絡調整担当 川津 中津江振興局長
	書 記	伊藤 長寿福祉課長 、 渡邊 選挙管理委員会事務局長	
	構成員	大島 延寿寮長、池田 監査指導課長	
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		中島 商工労政課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		中島 商工労政課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・ 中津江地区の防災士は 4 名であり、自治会単位での防災組織では形だけのものとなっている。今後は公民館単位で見直し、実際に行動できる人を巻き込み、防災士研修も一緒に受けてほしい。

(回答)

- ・ 事例であげた吹上町は、5つのエリアに分けてトランシーバーを使用し、現実的な対応をしている。地区別に話し合っって地域に合った組織を作っていただき、防災士と一緒に活動していただきたい。また、関心のある方は是非、防災士の研修にも参加していただきたい。

(意見)

- ・ 平成 29 年の阿蘇地震の時には、車の B S 放送から情報収集を行った。そういう情報の取り方もあるのではないかと思う。

(回答)

- ・衛星ラジオを考えている。全世帯に設置すると多額の費用がかかるが、自治会別・隣保班別に情報提供ができるようになり、使用してもらいたい。ただ、電池の確認など管理してもらわなければならない。
- ・また、自治会長さんなど、地域の状況をオペレートしてもらうなどのご協力をいただきたい。

(意見)

- ・津江地域は山が高いので、ドローンで2〜3年山を映し見ていくと木がなびいたり、山崩れなどの何らかの兆候がみられるのではないか。

(回答)

- ・平成28年の熊本地震の後に航空レーダー写真を見たが、地割れについては今のところ影響がある所は確認できていないので安心していただきたいと思うが、耶馬溪のように、何の兆候もない所が崩れた。いつ山が崩れるのかわからない。ドローンも一つの手段であると考えられる。

(質問)

- ・災害時の国道442号線の代替道路について市道田ノ口線の拡幅要望書を出し、平成22年9月30日付けで回答書をもっているが、5か所の拡幅の要望をしたのに対し、入口と1か所だけはしてもらった。他はどうなっているのか。後日、回答がほしい。

(意見)

- ・北海道の地震の後に、地域の情報をラジオで聞いて心のケアに良かったとテレビで言っていた。テレビは見ないので、ラジオでの情報提供は良いと思う。

(意見)

- ・日田市が独自で、雨量を測定するステーションはできないのか。

(回答)

- ・それは今、県などでやっていただいている。雨量が河川にどう影響するのか市では判断は難しい。「避難勧告」を出しても、広い地域で出すので、市街地の人は避難しないこともある。地域の状況を役所に教えていただければ、情報提供ができる。近い所で安全な場所に避難していただきたい。

- ・防災士の話が聞きたい時は、市に申し込みをしていただければ講師を派遣できる。

(意見)

- ・「避難勧告」、「避難指示」が出た時に、若い人は昼間仕事にいているため、避難する時には、車に乗せて移動させてもらっているが、もし、そのようなときに、事故にあった時の責任はどうなるのだろうか。

(回答)

- ・行政は、気象や警報等の情報提供はできるが、「避難するのか」、「自宅で待機するのか」の判断は難しい。事故の対応については、自分でやっていただくことになるのではないかと。

(その他の事項についての意見等)

○中津江振興局前の空き地におけるグラウンド・ゴルフでの使用について